『憲法研究』第12号　目次

特集　改憲論議と憲法変動の現在

企画趣旨：改憲論議と憲法変動の現在……辻村みよ子…*1*

Ⅰ　コロナ禍とウクライナ侵攻の中の日本と世界（*1*）
Ⅱ　〈特集１〉の各論考（*5*）
Ⅲ　〈特集２〉の各論考（*7*）
Ⅳ　今後の課題（*8*）

インタビュー

平和主義憲法論と自衛権……*9*

山内敏弘　（聞き手）河上暁弘

〈特集１〉日本の改憲論議の現在
——コロナ禍とウクライナ侵攻の中で

1　ウクライナ戦争後の改憲論議を読み解く視点……愛敬浩二…*27*

Ⅰ　本稿の課題（*27*）
Ⅱ　「安倍改憲」を振り返る（*28*）
Ⅲ　現在の改憲論議を読み解く視点（*30*）
Ⅳ　憲法審査会における改憲論議（*35*）
Ⅴ　結びに代えて（*37*）

2　安全保障政策の「転換」と憲法変動……城野一憲…*39*

Ⅰ　はじめに（*39*）
Ⅱ　抑　止（*40*）
Ⅲ　統　合（*44*）
Ⅳ　理　解（*48*）
Ⅴ　結びにかえて（*50*）

3　憲法９条をめぐる政府解釈と改憲論の展開……鈴木　敦…*53*

Ⅰ　はじめに（*53*）
Ⅱ　再軍備過程と政府の９条解釈（*54*）
Ⅲ　９条改正論の系譜と現況（*60*）
Ⅳ　おわりに（*65*）

4　平和的生存権論の展開……稲　正樹…*67*

Ⅰ　判例の発展と停滞（*67*）
Ⅱ　学説の発展（*74*）
Ⅲ　むすびにかえて（*80*）

5　非軍事的安全保障論研究序説
——ジーン・シャープ「市民的防衛」の意義と課題……麻生多聞…*81*

Ⅰ　市民的防衛（*81*）
Ⅱ　２つの事例——チェコ事件とルール闘争（*83*）
Ⅲ　考　察（*85*）

6　憲法９条の解釈を深化させる憲法24条の平和主義的意義
——大規模な軍事拡張路線を踏まえて……清末愛砂…*91*

Ⅰ　はじめに（*91*）
Ⅱ　憲法24条と平和主義（*92*）
Ⅲ　安保３文書の下での自衛隊の憲法明記と憲法24条（*98*）
Ⅳ　おわりに（*101*）

7　近年の憲法改正論議の特徴
——新聞記者の視点から……豊　秀一…*103*

はじめに（*103*）
Ⅰ　安倍晋三元首相が主導した改憲論議（*103*）
Ⅱ　自己目的化する改憲論（*106*）
Ⅲ　衆院憲法審査会を舞台にした９条論議（*109*）
Ⅳ　日本の立憲主義はどこへ向かう（*112*）

〈特集２〉世界の憲法変動と政治状況
――コロナ禍とウクライナ侵攻の中で

8 現代ロシアにおける外見的立憲主義への移行
――ソ連解体からウクライナ戦争まで……渋谷謙次郎…117

Ⅰ はじめに（117）
Ⅱ 93年憲法制定背景（118）
Ⅲ 新憲法体制の発足と憲法の機能不全（119）
Ⅳ 大統領権力継承劇：プーチン体制へ（121）
Ⅴ ロシア憲法の改憲手続と憲法修正（123）
Ⅵ 「プーチン憲法」（125）
Ⅶ コロナ禍と憲法体制（128）
Ⅷ ウクライナ軍事侵攻と立法の氾濫（129）
Ⅸ まとめにかえて（130）

9 米中の覇権争いと中国・台湾の憲法変動……松平徳仁…133

Ⅰ はじめに（133）
Ⅱ 憲法変動としての「中国革命」（134）
Ⅲ 中国：ナショナリズム（138）
Ⅳ 台湾：コロニアリズム（143）
Ⅴ 軍事化した憲法原理の哲学的基盤（147）
Ⅵ 結びにかえて――日本の責任とは（149）

10 「ウクライナ戦争」とドイツ
――安全保障政策における「時代の転換」……水島朝穂…151

Ⅰ 「時代の転換」――「軍事的抑制の文化」からの離陸（151）
Ⅱ 「ウクライナ戦争」と第67次基本法改正（152）
Ⅲ 「ウクライナ戦争」はドイツの安全保障政策をどう変えたか（156）
Ⅳ むすびにかえて――「戦車ではなく，交渉を」（160）

11 フランスの近時における政治変動と憲法変動……奥村公輔…163

Ⅰ はじめに（163）
Ⅱ 近時における政治変動――マクロンの親EU・親欧州政策がもたらした中道・極右・急進左派という分断（164）
Ⅲ 近時における憲法変動――２つの「緊急事態」に関する「法」の変動（170）
Ⅳ おわりに――現代フランスが直面する問題（175）

12 合衆国最高裁に対する不信とその行方
――Dobbs v. Jackson Women's Health Organization 事件判決をきっかけとして……菅谷麻衣…177

Ⅰ はじめに（177）
Ⅱ Dobbs 判決の概要（178）
Ⅲ Dobbs 判決の影響（180）
Ⅳ Dobbs 判決と最高裁懐疑論（186）

［論説］

1 憲法改正原案の審議と会期との関係に関する一考察
……星　正彦…189

Ⅰ はじめに（189）
Ⅱ 憲法改正原案と会期との関係（190）
Ⅲ 憲法改正原案の後会への継続の可能性（194）
Ⅳ 両院協議会で協議中に会期終了となった場合，両院協議会は消滅するか（197）
Ⅴ 憲法改正原案に係る両院協議会の成案を憲法審査会に付託することはできるか（199）
Ⅵ 憲法改正原案に係る両院協議会の成案は後会に継続するか（200）
Ⅶ おわりに（203）

2 トランスヒューマニズムの倫理的・法的問題と人間の尊厳……朱　穎嬌…205

Ⅰ はじめに（205）
Ⅱ トランスヒューマニズムとその倫理的・法的問題（206）
Ⅲ 人間の尊厳とトランスヒューマニズム（217）
Ⅳ おわりに（225）

3 篠原永明『秩序形成の基本権論』の論証を精査する
——「価値論なき憲法学」の可能性……小川 亮…229

Ⅰ 序（229）
Ⅱ 本書の論証（230）
Ⅲ 検 討（233）
Ⅳ 本書の意義と展望（240）

書評
河上暁弘『戦後日本の平和・民主主義・自治の論点
——小林直樹憲法学との「対話」に向けて』
（敬文堂，2022年）……石村 修…243

■ 憲法年表（2022年10月1日～2023年3月31日）……255
■ 国際学会等のご案内……265

執筆者紹介
（掲載順）

辻村みよ子（つじむら みよこ）

東北大学名誉教授，弁護士（東京弁護士会）
一橋大学大学院法学研究科博士課程単位修得，法学博士
〈主要近著〉著作集（第1巻）『フランス憲法史と立憲主義』，（第2巻）『人権の歴史と理論』，（第3巻）『国民主権と選挙権』，（第4巻）『憲法とジェンダー法学』，（第5巻）『家族と憲法』，（第6巻）『比較憲法の課題』（信山社，2020-23年），『憲法〔第7版〕』（日本評論社，2021年），『比較憲法〔第3版〕』（岩波書店，2018年），『憲法改正論の焦点』（法律文化社，2018年），『最新 憲法資料集』（辻村編著，信山社，2018年），『概説憲法コンメンタール』（辻村＝山元編，信山社，2018年），『講座 政治・社会の変動と憲法 —— フランス憲法からの展望』（辻村編集代表・全2巻，信山社，2017年），『憲法と家族』（日本加除出版，2016年）

山内敏弘（やまうち としひろ）

一橋大学名誉教授，獨協大学名誉教授
一橋大学大学院法学研究科博士課程修了，法学博士
〈主要著作〉『平和憲法の理論』（日本評論社，1992年），『人権・主権・平和』（日本評論社，2003年），『立憲平和主義と有事法の展開』（信山社，2008年），『改憲問題と立憲平和主義』（敬文堂，2012年），『「安全保障」法制と改憲を問う』（法律文化社，2015年），『安倍改憲論のねらいと問題点』（日本評論社，2020年）

河上暁弘（かわかみ あきひろ）

広島市立大学広島平和研究所教授
専修大学大学院法学研究科博士後期課程修了，博士（法学，専修大学）
《主要著作》『日本国憲法第9条成立の思想的淵源の研究 —— 「戦争非合法化」論と日本国憲法の平和主義』（専修大学出版局，2006年），『平和と市民自治の憲法理論』（敬文堂，2012年），『戦後日本の平和・民主主義・自治の論点 —— 小林直樹憲法学との「対話」に向けて』（敬文堂，2022年）

愛敬浩二（あいきょう こうじ）

早稲田大学法学学術院教授
1996年早稲田大学大学院法学研究科博士課程修了，博士（法学，早稲田大学）
《主要著作》「基本権の私人間効力論 —— 憲法・民法問題の観点から憲法学の課題を探る」愛敬浩二編『講座立憲主義と憲法学第2巻 人権Ⅰ』（信山社，2022年），「憲法9条訴訟と市民社会」法社会学85号（2019年），『憲法改正をよく考える —— Taking Constitution Seriously』（共著，日本評論社，2018年），『立憲主義の復権と憲法理論』（日本評論社，2012年）

城野一憲（しろの かずのり）

福岡大学法学部准教授
早稲田大学大学院法学研究科博士課程満期退学
「学校閉鎖と『教育についての権利』」『自由と平和の構想力 —— 憲法学からの直言〔水島朝穂先生古稀記念〕』（日本評論社，2023年），「憲法上の権利と関係的・構造的な権利観」福岡大学法学論叢67巻4号（2023年），『異論排除に向かう社会』（共訳，日本評論社，2020年），『教職のための憲法』（共編，ミネルヴァ書房，2020年）